

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成21年度技術情報第17号(キャベツの菌核病)について (送付)

下記のとおり情報を取りまとめたので送付します。

キャベツの菌核病が早い時期から発生しています。今後初秋まきキャベツで多発する恐れがあるので、予防散布を徹底してください。

- 1 農作物名 キャベツ
- 2 病害虫名 菌核病
- 3 予報内容
 - (1) 発生地域 県本土
 - (2) 対象作型 初秋まき
 - (3) 発生時期 早い
 - (4) 発生量 多

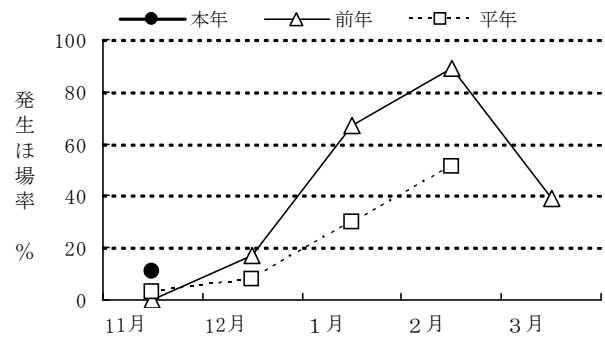


図1 菌核病の発生推移 (キャベツ)

4 情報の根拠

- (1) 11月の巡回調査では、発生ほ場率が11% (平年3%)と平年より高かった(図1)。
- (2) 昨年の発生が多かったため、伝染源が多いと予想される。
- (3) 例年12月以降発生が増加する。
- (4) 向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は平年並と予報されており、発生しやすい条件が続くと予想される。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 結球始期の予防散布を基本とする。主な伝染源である子のう胞子は、晩秋から初冬又は春に飛散するので、この時期に散布する。
- (2) 病原菌は葉柄基部付近から感染するので、薬剤は株元へ十分かかるように散布する。
- (3) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤とのローテーション散布を行う。
- (4) 発病株は隣接株の伝染源となり菌核を形成すると次株への伝染源となるので、ほ場外に持ち出し処分する。

(参考)



株元に子嚢盤を形成



葉柄基部から感染



病斑上に菌核を形成